

世界的なエネルギー構造の変革・需要増加  
に対応した攻めの経営を推進  
— 中計最終年度の営業利益は170億円超を計画 —

株式会社日本製鋼所  
代表取締役社長 永田昌久

2006年6月6日

ホームページURL: <http://www.jsw.co.jp>

お問い合わせ先: 経営管理部

総務・広報統括部長 吉村孝憲

TEL: 042-330-8000 FAX: 042-330-8017

# 第1部 06. 3期決算説明

# (1)06. 3期決算

連結経常利益過去最高(92.3期)を更新

(単位:億円)

## 1. 連結損益の状況

	05.3 実績 (A)	06.3 前回予想 (B)	06.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
売上高	1,583	1,670	1,734	103.8 %	109.5 %
連単倍率	1.22 倍	1.19 倍	1.19 倍	100.1 %	97.7 %
営業利益 (率)	77 4.9 %	101 6.0 %	129 7.4 %	127.7 %	167.5 %
経常利益	62	86	118	137.2 %	190.3 %
当期純利益	33	46	66	143.5 %	200.0 %
一株当たり 当期純利益	8.70 円	12.38 円	17.57 円	141.9 %	202.0 %

## 2. 単体損益の状況

(単位:億円)

	05.3 実績 (A)	06.3 前回予想 (B)	06.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
売上高	1,299	1,400	1,456	104.0 %	112.1 %
営業利益 (率)	48 3.7 %	80 5.7 %	107 7.3 %	133.8 %	222.9 %
経常利益	43	73	102	139.7 %	237.2 %
当期純利益	24	42	60	142.9 %	250.0 %
一株当たり 当期純利益	6.39 円	11.31 円	16.07 円	142.1 %	251.5 %

一株当たり 配当金	3 円	4 円	5 円	1 円	2 円
--------------	-----	-----	-----	-----	-----

利益伸長により、対前年比2円増配の5円配当を予定

## (2) 事業別連結売上高・営業利益の状況

(単位: 億円)

		05.3 実績 (A)	06.3 前回予想 (B)	06.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
鉄鋼製品	売上高	523	600	644	107.3 %	123.1 %
	営業利益	42	63	76	120.6 %	181.0 %
機械製品	売上高	1,026	1,050	1,069	101.8 %	104.2 %
	営業利益	75	85	98	115.3 %	130.7 %
地域開発	売上高	33	20	21	105.0 %	63.6 %
	営業利益	11	7	8	114.3 %	72.7 %
消去又は配分不能費用		△ 51	△ 54	△ 53	98.1 %	103.9 %
合計	売上高	1,583	1,670	1,734	103.8 %	109.5 %
	営業利益	77	101	129	127.7 %	167.5 %

### 06. 3期のレビュー

#### ①鉄鋼製品関連事業

中国向けを中心とする発電用部材、淡水化プラント向けクラッド鋼板、海洋天然ガス田向けクラッド鋼管の売上が増加したほか、原材料・原油価格高騰に対応した代価是正の浸透、増産効果、コスト低減活動の推進により、前期及び前回予想比増収増益となった。

#### ②機械製品関連事業

造粒機・押出機等の樹脂製造機械並びに国内自動車分野向けに射出成形機の売上が好調に推移。部品価格高騰の影響はあったものの、代価是正、受注増加に伴う増産効果、コスト低減活動等により、前期及び前回予想比増収増益となった。

#### ③地域開発関連事業

前期に事業規模を縮小したことにより、前期比減収減益となった。

### (3) 連結セグメント別の業績(売上高・営業利益)

(単位: 億円)

		05.3 実績 (A)	06.3 前回予想 (B)	06.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	285	300	313	104.3%	109.8%
	鋼板・鉄構部門	210	270	293	108.5%	139.5%
	(単体部門計)	495	570	606	106.3%	122.4%
	連結会社他	28	30	38	126.7%	135.7%
	連結売上高	523	600	644	107.3%	123.1%
営業利益		42	63	76	120.6%	181.0%

短納期のクラッド鋼板の伸長

レアメタル価格の上昇が一服し、原材料価格の上昇にコストダウンの進捗が追いつき始めた

電動中型・大型射出成形機が増加

出荷ずれ

(単位: 億円)

		05.3 実績 (A)	06.3 前回予想 (B)	06.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)	
機械製品関連	樹脂機械部門	404	450	476	105.8%	117.8%	
	その他機械部門	373	365	358	98.1%	96.0%	
	(単体部門計)	777	815	834	102.3%	107.3%	
	連結会社他	(IT関連)	97	95	97	102.1%	100.0%
		(その他)	152	140	138	98.6%	90.8%
連結売上高		1026	1,050	1,069	101.8%	104.2%	
営業利益		75	85	98	115.3%	130.7%	

# (4) 連結セグメント別の業績(受注高)

輸出向けの火力・原子力発電用部材がさらに伸長

(単位: 億円)

		05.3 実績 (A)	06.3 前回予想 (B)	06.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
鉄鋼製品 関連	鑄鍛鋼部門	356	345	398	115.4%	111.8%
	鋼板・鉄構部門	259	360	617	171.4%	238.2%
	(単体部門計)	615	705	1,015	144.0%	165.0%
	連結会社他	28	25	38	152.0%	135.7%
	連結受注高	643	730	1,053	144.2%	163.8%

中東向け超大型石油精製装置の受注のほか、天然ガス田開発が続く

石化プラント設備受注のほか、自動車部品向け等の射出成形機の伸長が継続

(単位: 億円)

		05.3 実績 (A)	06.3 前回予想 (B)	06.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
機械製品 関連	樹脂機械部門	441	465	577	124.1%	130.8%
	その他機械部門	316	397	385	97.0%	121.8%
	(単体部門計)	757	862	962	111.6%	127.1%
	連結会社他	237	238	231	97.1%	97.5%
	連結受注高	994	1,100	1,193	108.5%	120.0%

# (5) 連結貸借対照表及び連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円)

	05.3 実績 (A)	06.3 前回予想	06.3 実績 (B)	対前年実績 差異 (B)-(A)
流動資産	1,162	1,144	1,221	59
固定資産	685	720	746	61
資産合計	1,847	1,864	1,967	120

(単位:億円)

	05.3 実績 (C)	06.3 前回予想	06.3 実績 (D)	対前年実績 差異 (D)-(C)
流動負債	933	868	894	△ 39
固定負債	332	367	411	79
株主資本	575	627	659	84
負債、少持及 び資本合計	1,847	1,864	1,967	120

株主資本比率	31.1	33.6	33.5	2.4
1株当株主資本	154.6	168.9	177.2	22.6

(単位:億円)

	05.3実績 (A)	06.3前回予想	06.3実績 (B)	対前年実績差異 (B)-(A)
営業活動 キャッシュフロー	73	61	128	55
圧縮資産売却に係わる 納税額		△ 69	△ 69	△ 69
投資活動 キャッシュフロー	136	△ 54	△ 65	△ 201
計	209	△ 62	△ 6	△ 215
財務活動 キャッシュフロー	△ 119	△ 34	△ 53	66
現金及び現金同等物の 期末残高	69 172	145	182	△ 59

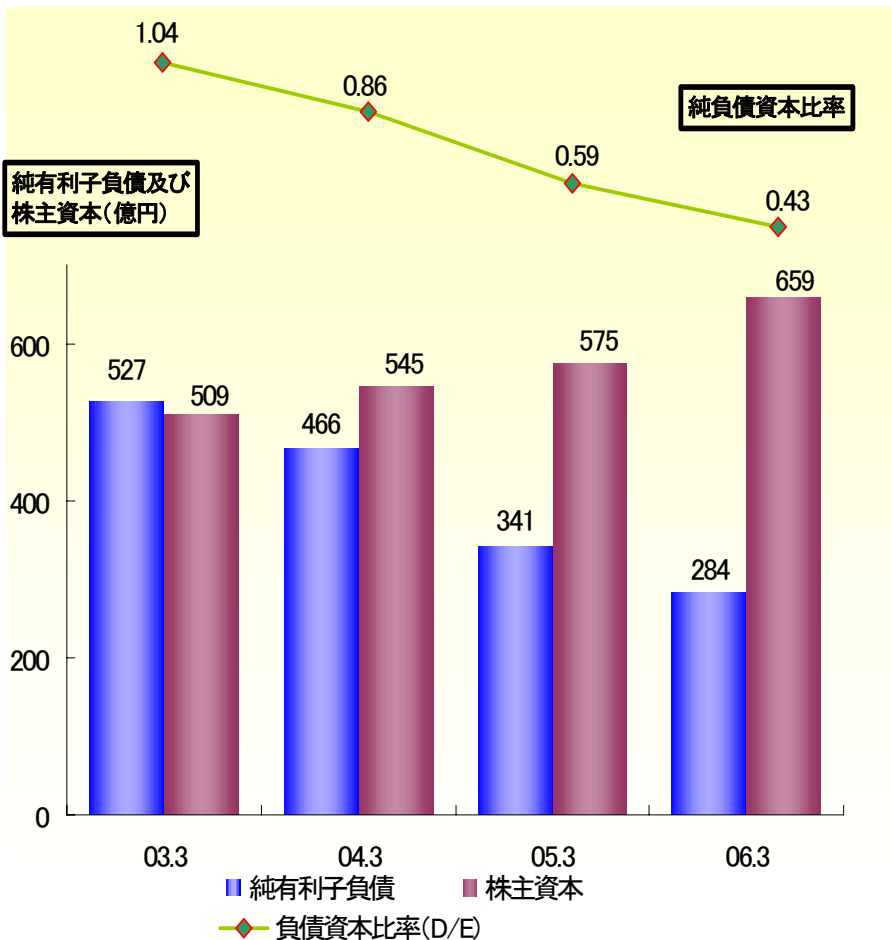
受注増加に伴う前受金受領の増加等により運転資金需要が減少

# (6) 財務体質の状況(純有利子負債の推移)(連結)

○06.3期の有利子負債残高は、前期末比41億円減少し469億円

○株主資本は、利益の増加と株式含み益の増加により、前期末比84億円増加し658億円

○06.3期の純負債資本比率(D/E)は0.43倍



	期末	03.3	04.3	05.3	06.3前回	06.3実績
債務償還年数(年) (有利子負債/営業CF)		6.9	7.5	7.0	7.9	8.0
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍) (営業CF/利払い)		7.5	7.3	6.9	6.7	7.1
有利子負債EBITDA倍率(倍) (有利子負債/EBITDA)		6.3	5.6	4.4	4.2	2.8

(単位: 億円)

有利子負債(A)	681	621	510	487	469
現預金残高(B)	154	155	69	145	185
			169		
純有利子負債(A)-(B)	527	466	341	342	284



## 第2部 07. 3期予想と中期経営計画

# (1) 中期経営計画の概要について

名称: J2008

実施期間: 07.3期(2006年度)を初年度とし09.3期を最終年度とする3カ年の計画

主な狙い: 技術経営の推進を通じ、顧客に満足・信頼いただける製品・サービスを提供し、株主の満足、従業員の幸せを実現し、ひいては社会の発展に貢献することにより、企業価値の最大化を実現する。

次の100年にむけた飛躍 1907年(明治40年)創立  
2007年(平成19年)100周年

## 重点項目

①収益力の向上 ②資産効率の向上 ③CSRの推進

ビジョン: 変化創造企業  
「独創技術で変化を創り出し社会の発展に貢献する企業」

## (2) 経営理念・基本方針・行動基準

### 経営理念

顧客に驚きと感動を  
与え続ける

社会との共生を図り、  
継続的に利益を実現  
する

変わり続ける意識を  
持つ

### 基本方針

- ①顧客満足重視の経営
- ②技術経営の推進
- ③新規事業の開拓
- ④企業倫理の遵守
- ⑤安全の確保
- ⑥環境保全活動の推進
- ⑦人材の育成

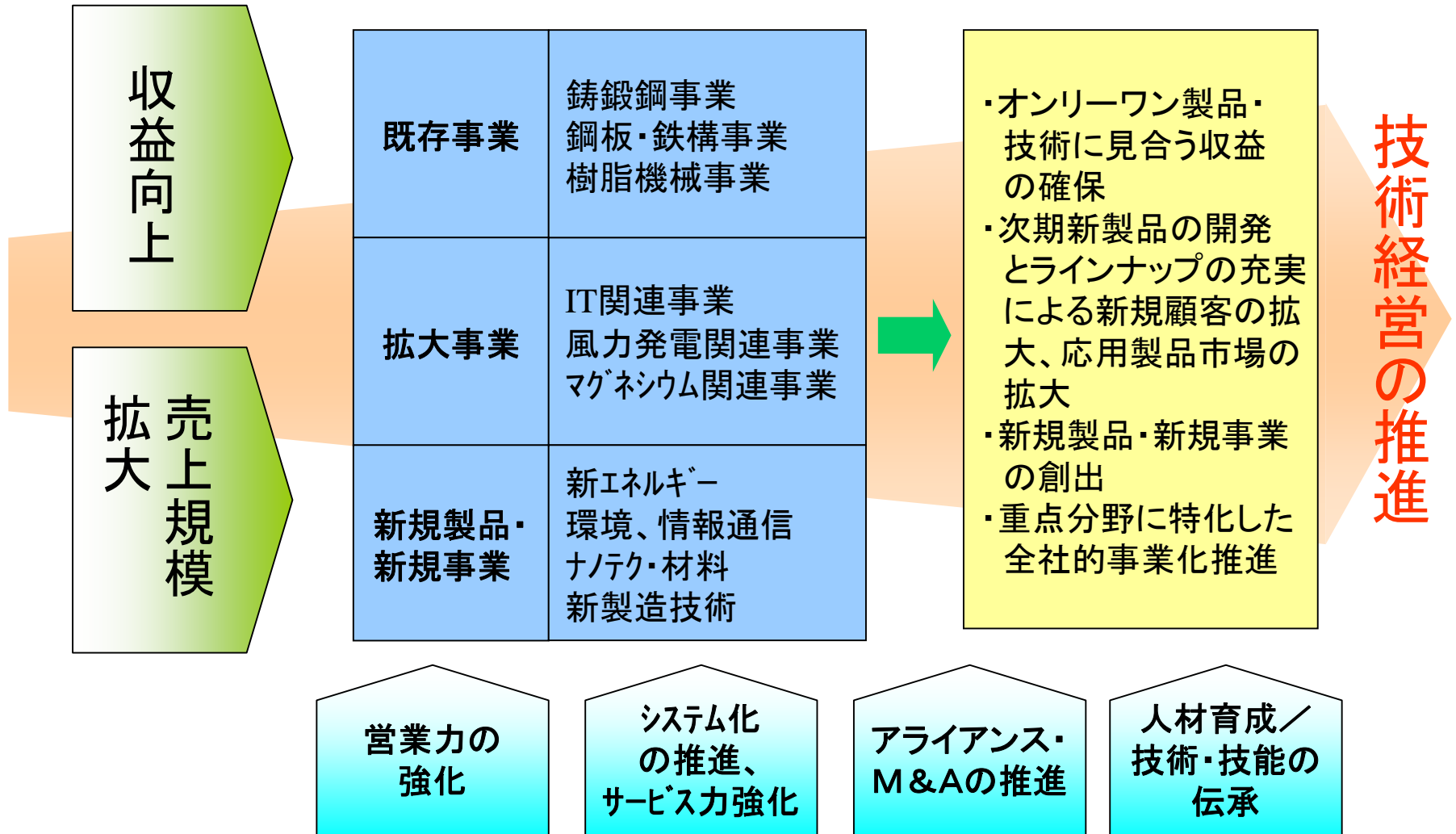
### 行動基準

- ①信頼される製品・技術・サービスの提供
- ②倫理・法令の遵守
- ③公正・透明な事業活動
- ④国際社会のルール尊重、環境の保護
- ⑤反社会的勢力との対決
- ⑥企業情報の開示
- ⑦従業員を尊重、安全で良好な職場環境の保護
- ⑧経営トップによる問題解決、厳正処分

# (3) 重点目標 ①収益力の向上

一流製造業であり続けるための成長の原資確保

事業を3区分とした事業運営により、収益向上、売上拡大を目指す



## (4) 重点目標 ②資産効率の向上

少ないインプットで大きなリターンを実現

総資本経常利益率(ROA)  
:09.3期に8%以上を目標



運転資金の効率化

グループ資金効率の向上

IT活用の推進

遊休資産の活用による資金効率の向上

# (5) 重点目標 ③CSRの推進

## CSR基本方針

- ・法令・企業倫理の遵守等に加え、**高い品質の製品を安定的に供給**し続け社会の発展に貢献することも当社の責任と考えた幅広い活動を推進する。
- ・顧客・株主・従業員・地域社会等の全ての利害関係者の満足、信頼をかちとる。
- ・地球環境保護に徹した製品の開発を進める。

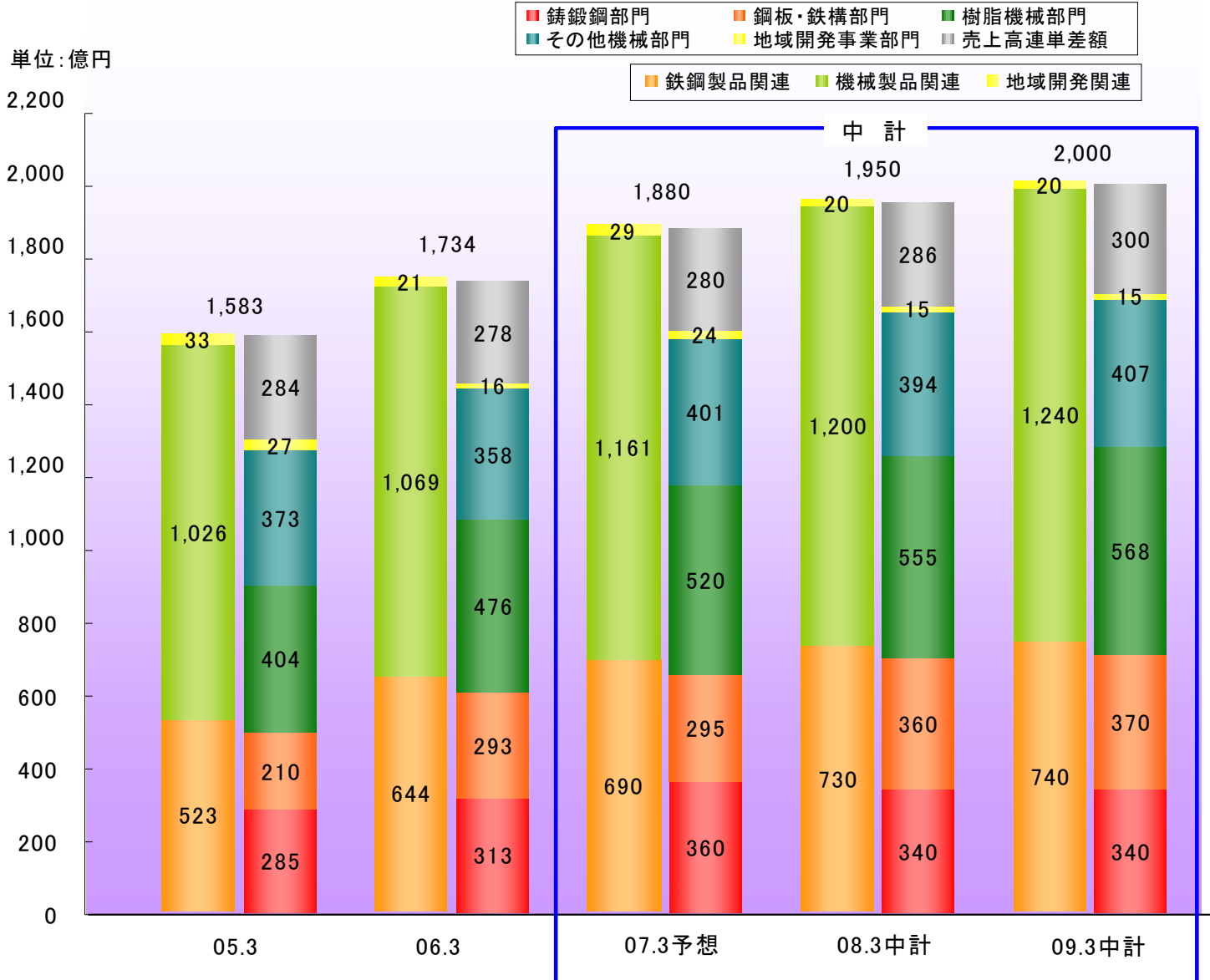


- ①高品質製品の安定供給
- ②顧客満足重視の経営
- ③企業倫理の遵守
- ④安全の確保
- ⑤環境保全活動の推進
- ⑥IR活動の推進

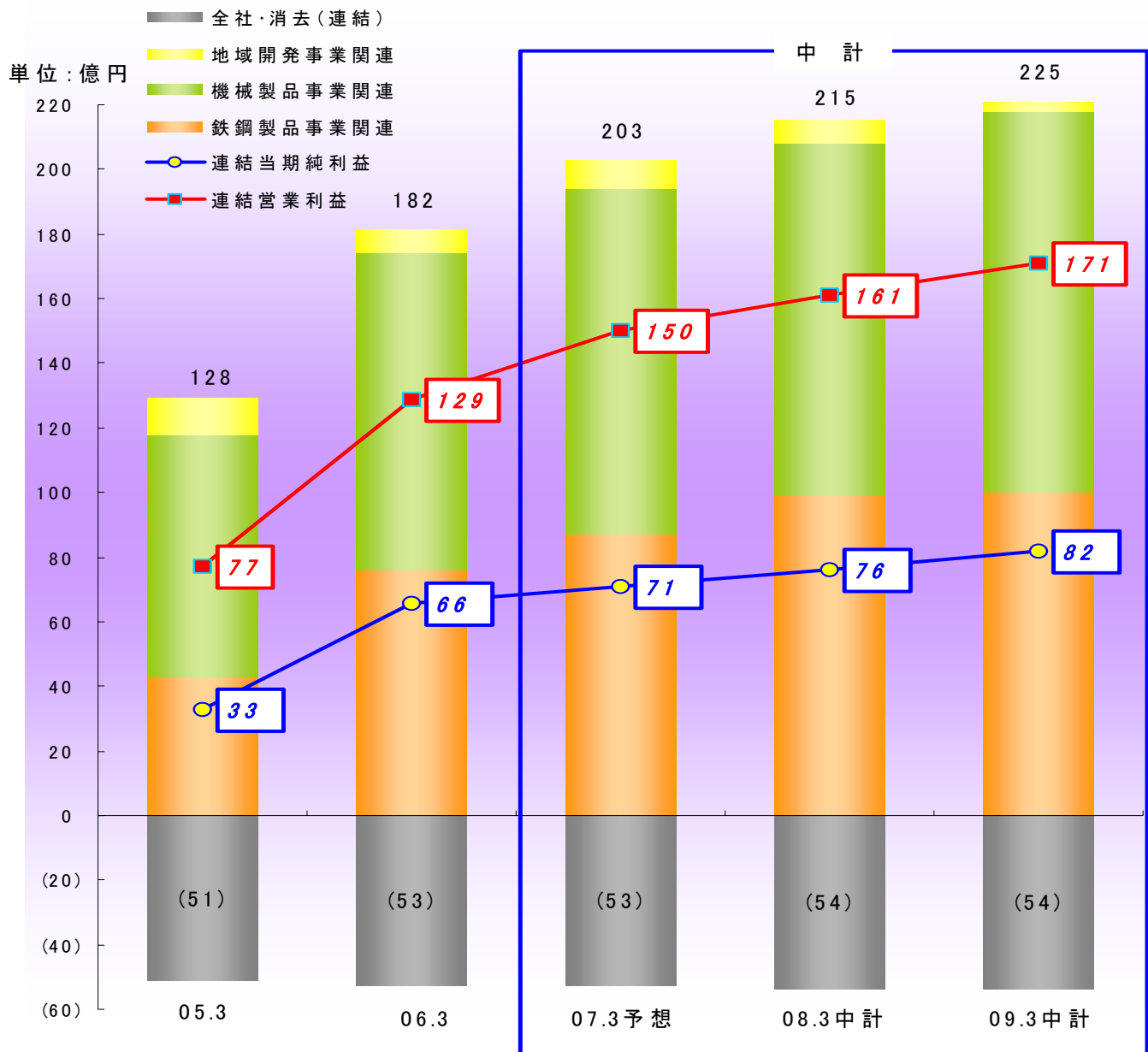


- 顧客満足
- 株主満足
- 従業員満足

# (6) 中計期間中の売上高 —09.3期に売上高2,000億円を目指す—



# (7) 中計期間中の営業利益、当期純利益





# (8)07. 3期 業績予想

前期に引き続き連結経常利益の過去最高更新を見込む

## 1. 連結損益の状況

(単位：億円)

	05.3 実績	06.3 実績 (A)	07.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
売上高 連単倍率	1,583 1.22 倍	1,734 1.19 倍	1,880 1.18 倍	108.4 % 0.99 倍
営業利益 (率)	77 4.9 %	129 7.4 %	150 8.0 %	116.3 %
経常利益	62	118	135	114.4 %
当期純利益	33	66	71	107.6 %
一株当たり 当期純利益	8.70 円	17.57 円	19.12 円	108.8 %

## 2. 単体損益の状況

	05.3 実績	06.3 実績 (A)	07.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
売上高	1,299	1,456	1,600	109.9 %
営業利益 (率)	48 3.7 %	107 7.3 %	130 8.1 %	121.5 %
経常利益	43	102	120	117.6 %
当期純利益	24	60	64	106.7 %
一株当たり 当期純利益	6.39 円	16.07 円	17.24 円	107.3 %

一株当たり 配当金	3 円	5 円	5 円	0 円
--------------	-----	-----	-----	-----

# (9)07. 3期 事業別売上高・営業利益の状況

(単位: 億円)

		05.3 実績	06.3 実績 (A)	07.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
鉄鋼製品	売上高	523	644	690	107.1 %
	営業利益	42	76	87	114.5 %
機械製品	売上高	1,026	1,069	1,161	108.6 %
	営業利益	75	98	107	109.2 %
地域開発	売上高	33	21	29	138.1 %
	営業利益	11	8	9	112.5 %
消去又は配分不能費用		△ 51	△ 53	△ 53	100.0 %
合計	売上高	1,583	1,734	1,880	108.4 %
	営業利益	77	129	150	116.3 %

# (10)07. 3期 連結セグメント別の業績予想

(売上高・営業利益・受注高)

発電用部材(原子力を含む)は引き続き堅調に推移

中東向け超大型石油精製装置の受注

(単位:億円)

売上高・営業利益		06.3 実績 (A)	07.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	313	360	115.0%
	鋼板・鉄構部門	293	295	100.7%
	(単体部門計)	606	655	108.1%
	連結会社他	38	35	92.1%
	連結売上高	644	690	107.1%
営業利益		76	87	114.5%

受注高		06.3 実績 (C)	07.3 予想 (D)	対前年 実績比 (D)/(C)	05.3 実績
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	398	377	94.7%	356
	鋼板・鉄構部門	617	260	42.1%	259
	(単体部門計)	1,015	637	62.8%	615
	連結会社他	38	35	92.1%	28
	連結売上高	1,053	672	63.8%	643

増産効果と原価低減の進捗を見込むも、原油価格が懸念材料

顧客の発注時期が前倒しの傾向にあり、動向見定めには時間が必要

成形機の海外案件は保守的に予測

(単位:億円)

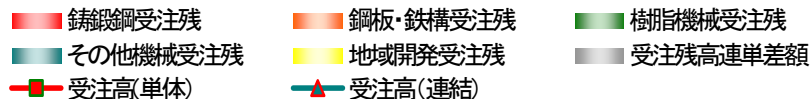
売上高・営業利益		06.3 実績 (A)	07.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)	
機械製品関連	樹脂機械部門	476	520	109.2%	
	その他機械部門	358	401	112.0%	
	(単体部門計)	834	921	110.4%	
	連結会社他	(IT関連)	97	97	100.0%
		(その他)	138	143	103.6%
	連結売上高	1,069	1,161	108.6%	
営業利益		98	107	109.2%	

受注高		06.3 実績 (C)	07.3 予想 (D)	対前年 実績比 (D)/(C)	
機械製品関連	樹脂機械部門	577	495	85.8%	
	その他機械	385	374	97.1%	
	(単体部門計)	962	869	90.3%	
	連結会社他	(IT関連)	91	99	108.8%
		(その他)	140	121	86.4%
	連結受注高	1,193	1,089	91.3%	

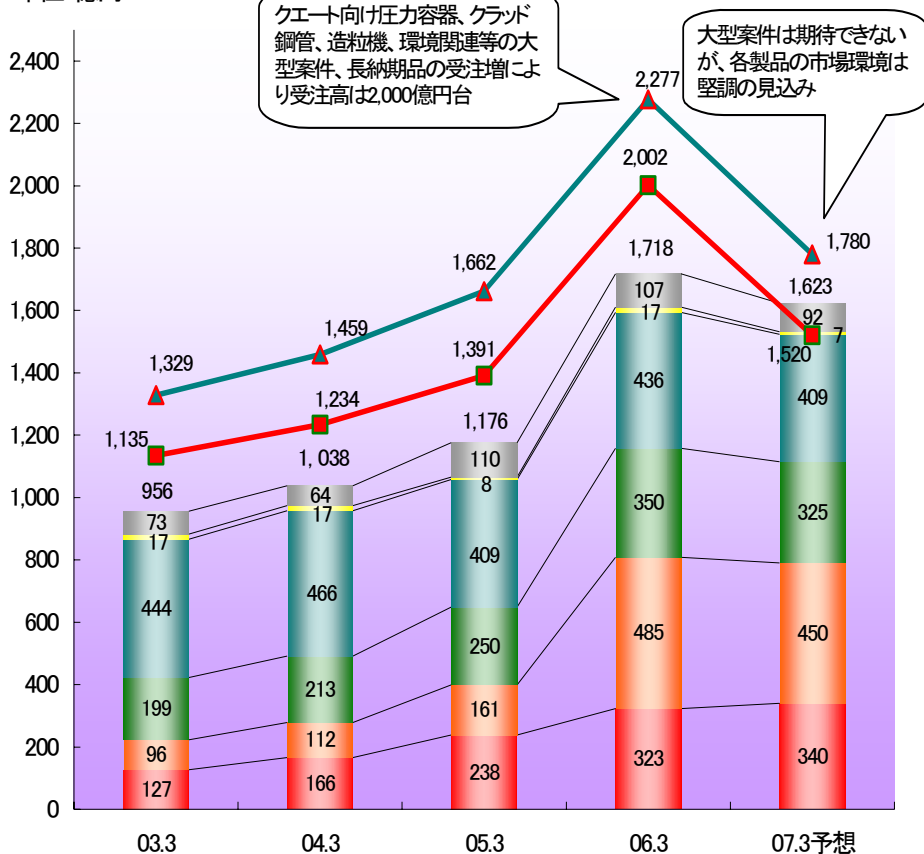
増産と原価低減効果

風力発電事業の計画案件の着手が相次ぐ

# (11)07. 3期の受注高・受注残高と08. 3期の傾向



単位: 億円



## 07.3期予想

### ○ 鋳鍛鋼部門

中国向けを中心とする火力発電用部材、原子力発電用部材のほか、大型の鉄鋼圧延用ロールの需要は堅調

### ○ 鋼板・鉄構部門

圧力容器、クラッド鋼板・鋼管の受注環境は引き続き堅調

### ○ 樹脂機械部門

中国、中東を中心に樹脂製造機械の需要が継続、射出成形機は国内自動車分野及びデジタル家電向けに中・大型機が堅調を維持するほか小型機受注にも注力

### ○ その他機械部門

マグネシウム合金射出成形機は中国・韓国での携帯電話マグネシウム化進展により増加、レーザアニール装置はサービス子会社の立ち上げ、風力発電機器ブレードの増加等により好調に推移

→ 今期は大型案件が減少するも、エネルギー関連部材、樹脂機械を中心に受注環境は堅調に推移

## 08.3期予想

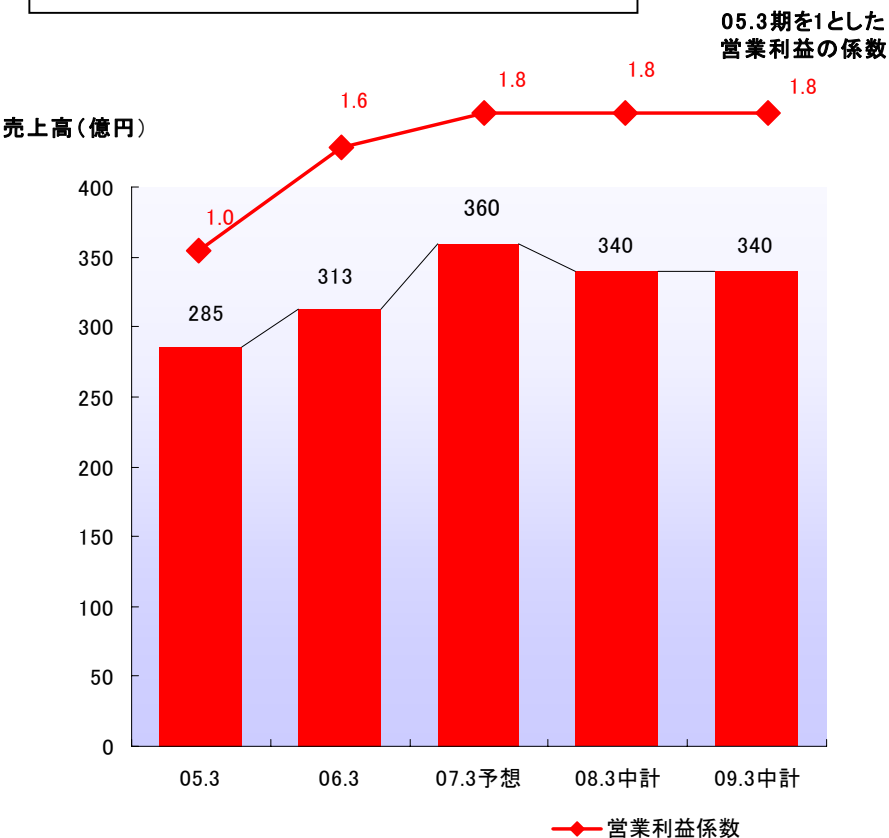
06.3期及び07.3期の受注残が売上に立つとともに、受注環境は堅調に推移する見込みから、受注・売上ともに07.3期比増加を予想

# (12) 鋳鍛鋼部門：発電用部材等ニッチトップ製品の伸長

## 基本戦略

- ①火力・原子力発電用部材等のニッチトップ・オンリーワン技術戦略の展開によるシェア拡大
- ②需要環境に合わせた生産能力向上・効率化のための設備投資継続実施

鋳鍛鋼部門(単体)の売上高・営業利益推移



## 07.3期状況

- 中国向け火力発電用部材は引き続き堅調に推移
- 原子力発電用部材は中国の新設案件継続、米国の取替・新設案件への取組みのほか、日本、韓国での新設動向を注視(補足資料P6を参照)
- 鉄鋼圧延用ロールは大型品を中心に堅調に推移

超大型厚板用ロールは4年先納期分まで確保

- 電子材料用素材は液晶テレビ等の増加により今後は減少を予想

→売上の増加及び代価是正も進み、07.3期の営業利益は06.3期比10%以上増加の見込み

## 08.3期予想

中国向け火力発電用部材及び原子力発電用部材は引き続き堅調に推移、鉄鋼圧延用ロールは国内・アジアを中心に大型品の需要が継続  
 原材料・原油価格高騰継続するも、コスト削減により売上高・利益とも堅調に推移する見込み

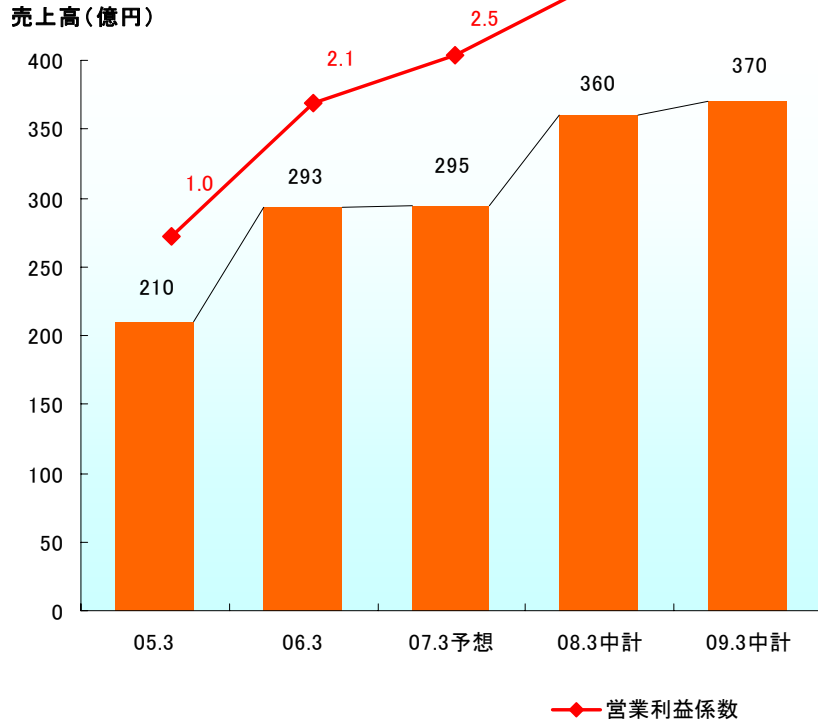
# (13) 鋼板・鉄構部門：エネルギー構造の変革・需要増に伴う伸長分野の強化・拡大

## 基本戦略

- ① 需要動向に即した製造ライン・プロセスの構築
- ② 設備投資の継続実施による生産能力向上・効率化の推進

鋼板・鉄構部門(単体)の売上高・営業利益推移

05.3期を1とした  
営業利益の係数



北米向け圧力容器、淡水化プラント用クラッド鋼板が増加の見通し

## 07.3期状況

圧力容器(補足資料P8を参照)

- 原油需要の拡大に伴い中東での製油所新設による大型案件の継続受注に注力
- カナダのオイルサンド向け需要の取り込み
- 米国での新設案件の取り込み

クラッド鋼板・鋼管(補足資料P7を参照)

- 中東での淡水化プラント用、ケミカルタンカー用、石油化学プラント用クラッド鋼板の需要は高水準の見込み
- 耐腐食性が要求される海洋天然ガス田向け鋼管の需要は引き続き堅調に推移  
→ 代価是正及びコスト削減の推進により、07.3期の営業利益は06.3期比20%程度増加の予想

06.3期からの設備投資貢献

## 08.3期予想

脱硫用の圧力容器需要の継続、東南アジアでの海洋天然ガス田プロジェクト、中東向け淡水化プラントとも堅調に推移。07.3期比増収増益を予想

# (14) 樹脂機械部門: 世界No.1の総合樹脂機械

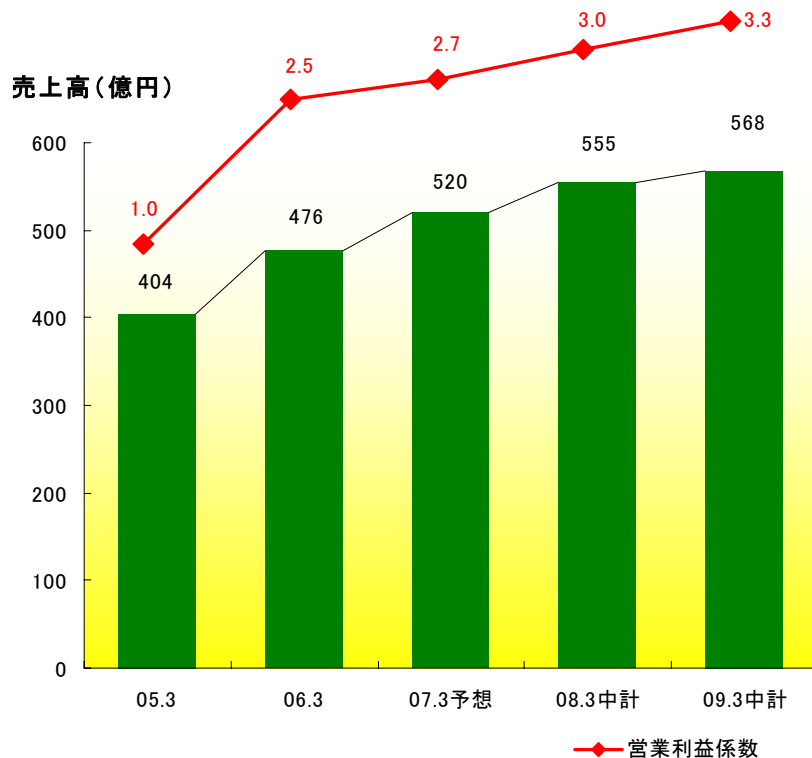
## メーカーを目指す

### 基本戦略

- ① 差別化技術の強化とJSWブランドの浸透
- ② アライアンスによる新規事業・新製品育成
- ③ 情報・通信分野(光学液晶フィルム)の強化
- ④ 小型射出成形機市場の攻略

### 樹脂機械部門(単体)の売上高・営業利益推移

05.3期を1とした  
営業利益の係数



### 07.3期状況

#### 成形機 (補足資料P10を参照)

- 国内自動車分野及びデジタル家電向けに中・大型機の需要は06.3期と同様好調に推移
- 中国は自動車分野向けを中心に06.3期並のほか韓国、東南アジアでの需要が増加見込み
- 中型機のモデルチェンジ、ハイブリッド機のシリーズ化、小型機の受注割合を3割から4割に引上げ

#### 樹脂製造・加工機械

- 造粒機・押出機は中東・中国向けを中心に堅調な需要環境が継続

サウジアラビア、インド向けに押出機が増加の見通し

- 樹脂加工機械は光学液晶フィルム向け需要の増加と高付加価値製品技術の確立  
→ 売上の増加、部品価格高騰を織り込んだ代価は正、増産及びコスト削減効果により、営業利益は06.3期比10%程度増加の見込み

### 08.3期予想

小型射出成形機の受注増加、樹脂製造機械は中東及び中国を中心に市場環境は堅調、売上増加、生産効率向上、コスト削減効果等により07.3期比増収増益を予想



# (15) その他機械部門: 技術経営の推進により

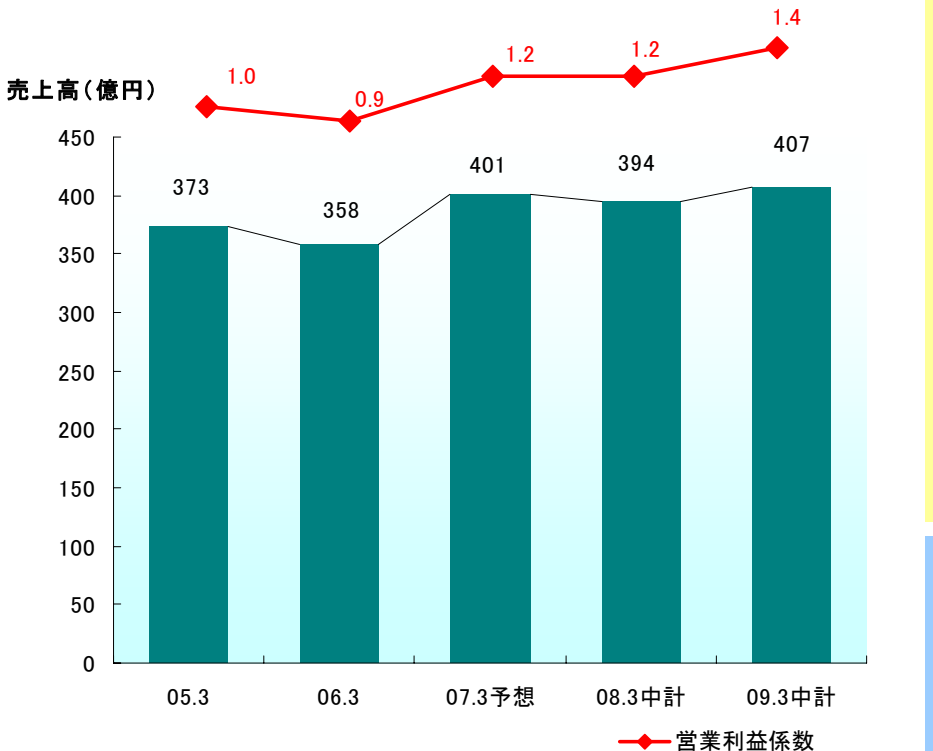
## 新規事業分野の開拓

### 基本戦略

- ①新製品・新事業の早期投入と戦力化
- ②戦略的アライアンスによる事業拡大
- ③応用製品・周辺製品開発による市場拡大

その他機械部門(単体)の売上高・営業利益推移

05.3期を1とした  
営業利益の係数



### 07.3期状況

#### IT関連機器

##### (レーザアニール装置)

- 国内・韓国のサービス子会社設立による体質強化と利益増加を目指す

- 子会社との連携による製品競争力の強化

##### (マグネシウム合金射出成形機)

- 新機種による新規顧客の開拓に注力

- 大手携帯電話メーカーによる中国・韓国でのマグネシウム部品採用の拡大→受注・売上の増加

#### 新規事業

- 風力発電機器用ブレード、発電機の製造により製品ラインナップの拡充とコスト競争力の強化を図る

→マグネシウム合金射出成形機、レーザアニール装置及び風力発電機器の増加により、07.3期の営業利益は06.3期比30%以上増加の見込み

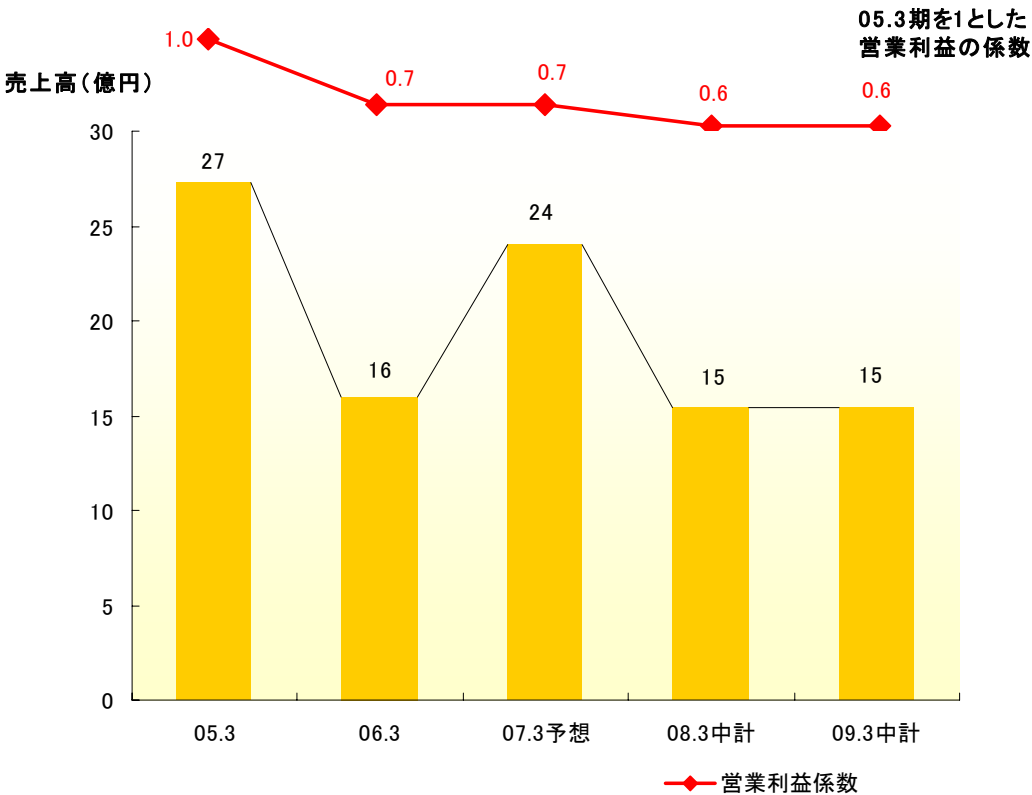
### 08.3期予想

防衛関連機器は新防衛大綱の影響から減少を予想、レーザアニール装置は堅調に推移、マグネシウム合金射出成形は付加価値を高めたノート型パソコン関連の取り込みを図り、07.3期並の売上、利益を目指す



# (16) 地域開発事業部門: 社有資産の有効活用推進

地域開発事業部門(単体)の売上高・営業利益推移



○既存賃貸事業の運営・管理業務のレベルアップ、他社との協業による営業力強化

- ①安定的収益の確保
- ②キャッシュフローの創出



オフィスビル事業(府中インテリジェントパーク)

# 説明会補足資料

# 当社の沿革

1907年 北海道炭礦汽船株式会社と英国アームストロング・ウイトウォース会社とビッカース会社の3社共同出資により設立。資本金1,000万円。本社及び工場を北海道室蘭におく。

1920年  
～ 広島、横浜、東京に製作所を設置。

1938年  
1950年 商号を(株)旧日本製鋼所と変更のうえ解散。資本金2億円をもって(株)日本製鋼所を設立。旧会社から室蘭・広島・横浜・東京の4製作所および本店その他の営業所を継承して新発足。

1983年 横浜製作所を移転。  
デミング賞実施賞受ける。

1991年 広島製作所にて樹脂機械関連技術開発センター完成。

1992年 東京製作所跡地に府中インテリジェントパーク竣工

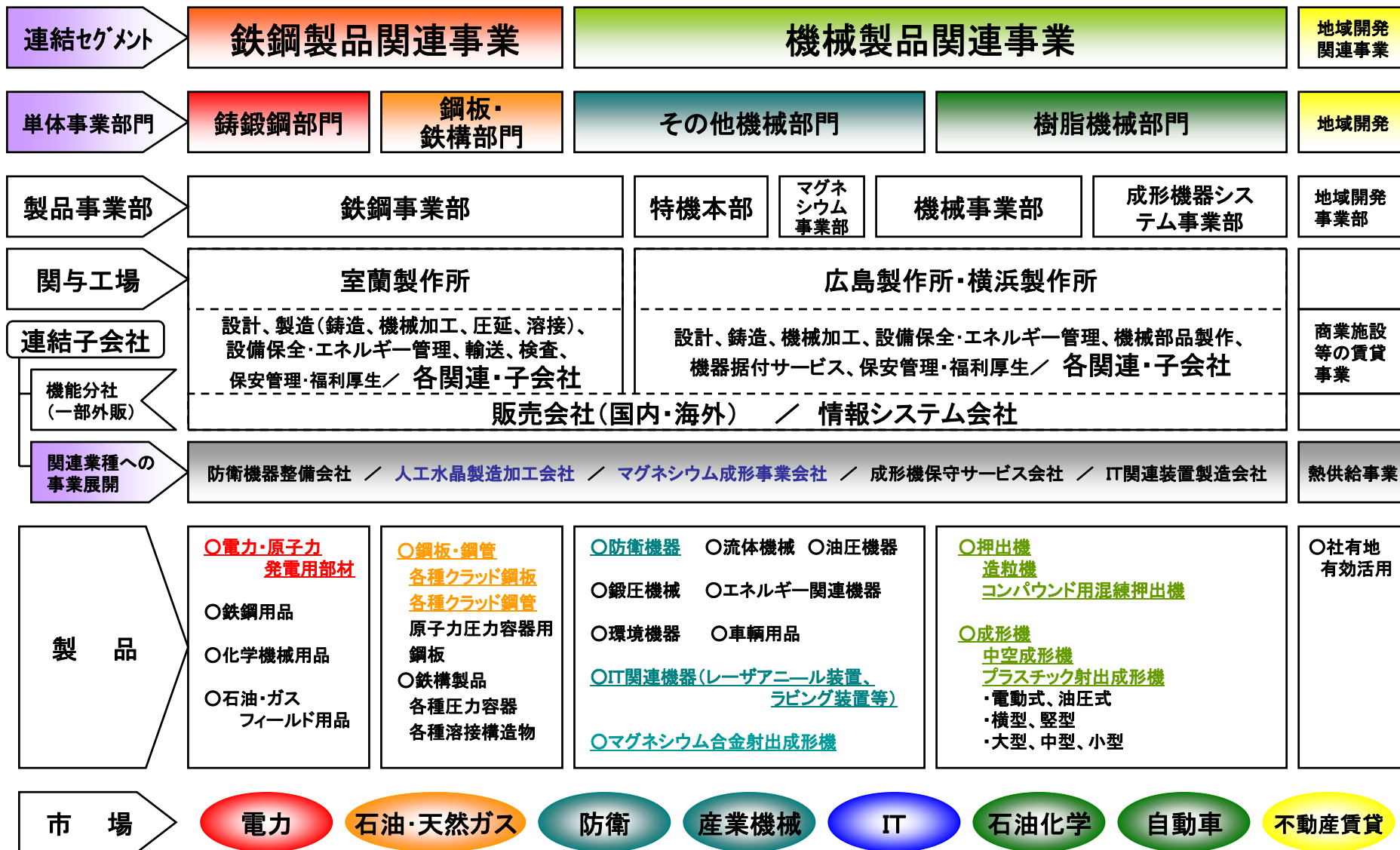
1994年 ISO9001・9002の認証を取得。

1998年 ISO14001の認証を取得。

2003年 室蘭製作所にて  
14,000トン鍛造プレス竣工。

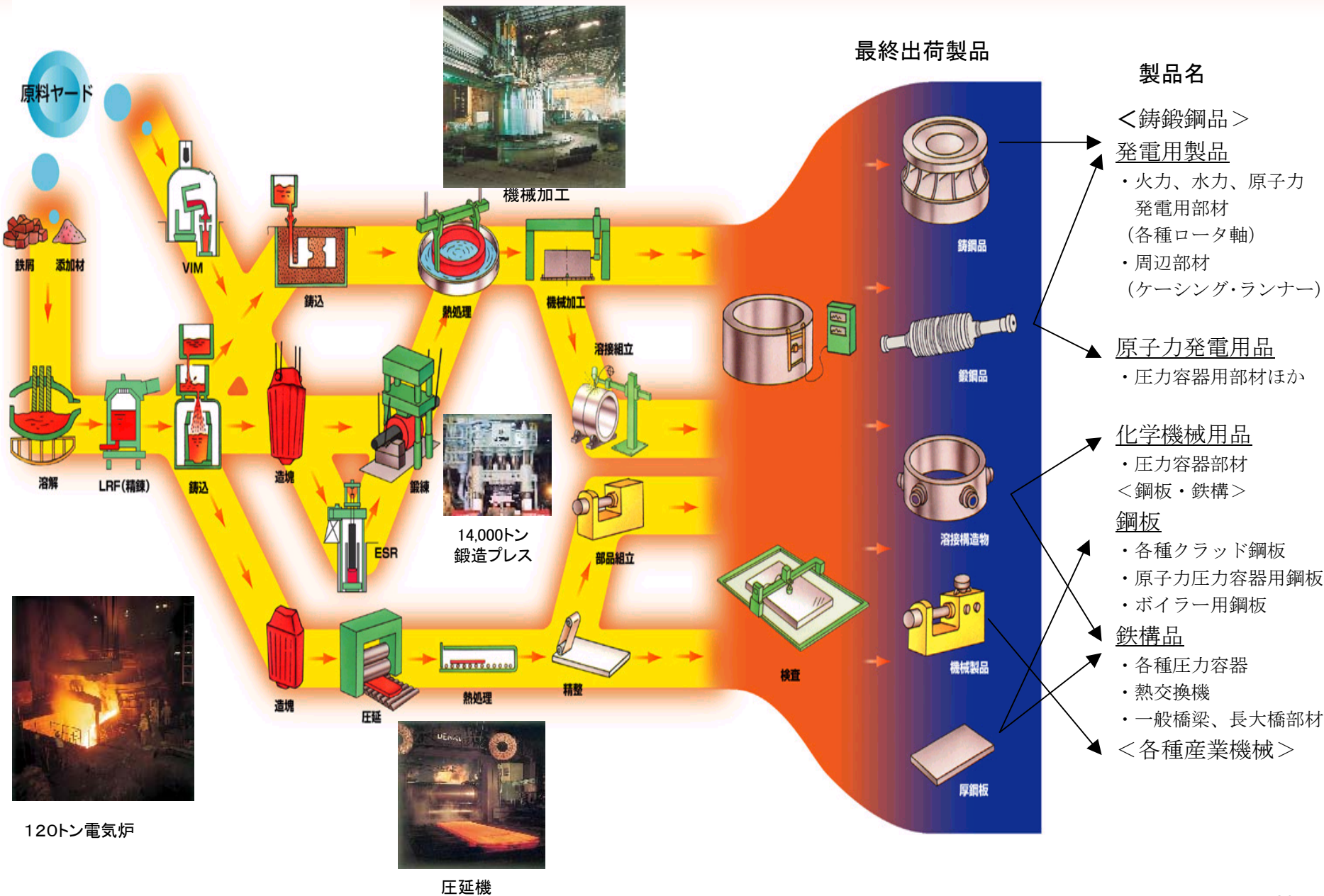


# 事業部門の構成と当社製品群





# 鑄鍛鋼製品 鋼板・鉄構製品の製造工程 鋼づくりを原点とする製品群



# 樹脂機械 樹脂製造機械から加工機械までのフルラインナップで市場拡大

## 樹脂機械(プラスチック関連技術・装置の流れ)



ポリマー重合リアクター  
(石油化学プラント)

連続ミキサー  
造粒システム

超大型造粒装置



処理量: 20-40万トン(年)  
モータ: 5,000-12,000KW

ミキサー  
フィーダー

ホッパー

ペレット

コンパウンド用押出機  
「TEXシリーズ」



高機能化

二軸混練押出機(TEX)

コンパウンド  
ペレット

超大型化

食品加工機



食品用押出機



成形品  
組織化タンパク・スナック類

押出成形機



A-PETシート製造装置



成形品  
紡糸・シート製品

中空成形機

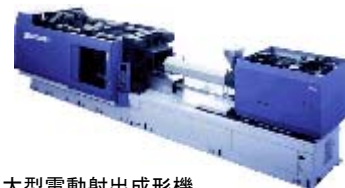


NB150-2CCE連続多層中空成型機



成形品  
ガソリントーク類

射出成形機



大型電動射出成形機  
J-ELIIIシリーズ(650)

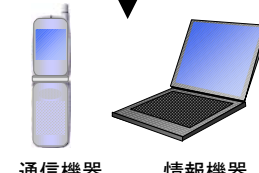


成形品  
自動車用部品

マグネシウム  
射出成形機



新シリーズマグネシウム合金  
射出成形機(280トン)



成形品  
通信機器  
情報機器

廃プラスチック減容・脱塩素処理設備・システム(リサイクル処理、固形燃料処理)

# 連結財務諸表の概要

(単位:百万円)

	02.3	03.3	04.3	05.3	06.3実績
<b>経営成績</b>					
売上高	131,976	134,268	136,309	158,274	173,353
営業利益	4,288	5,813	6,394	7,721	12,876
経常利益	1,835	3,000	4,558	6,210	11,770
当期純利益	756	831	2,000	3,284	6,586
一株当たり当期純利益	2.03	2.23	5.39	8.70	17.57
株主資本当期純利益率	1.5	1.6	3.7	5.9	10.7
売上高経常利益率	1.4	2.2	3.3	3.9	6.8
<b>財政状態</b>					
株主資本	50,559	50,880	54,540	57,461	66,853
株主資本比率	27.6	29.3	30.3	31.1	33.5
一株当たり株主資本	136.11	137.00	146.86	154.59	177.19
<b>キャッシュフローの状況</b>					
営業活動によるキャッシュフロー	4,133	9,928	8,232	7,291	5,854
投資活動によるキャッシュフロー	525	△1,888	△2,791	13,611	△6,534
財務活動によるキャッシュフロー	△2,150	△5,283	△5,959	△11,918	△5,307
現金及び現金同等物期末残高	12,910	15,613	15,142	24,111	18,179